

完熟堆肥の作り方

1

一次処理

準備物

■堆肥化ケース

■床材：比率

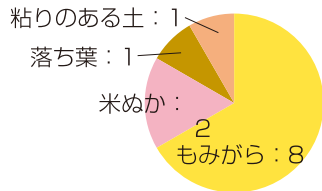
…もみがら：8

…米ぬか：2

…落ち葉：1

…粘りのある土：1

■混合比率グラフ



完熟堆肥は、家庭での一次処理でできたものをまとめた量にして発酵させる二次処理を行うことで、完成します。



もみがら



落ち葉



米ぬか



粘りのある土



1 日で出た生ごみを水切りしていれます。



生ごみを床材の表面に入れたら床材と生ごみを軽く混ぜてください。

一次処理
でのポイント

1

堆肥化ケースの 置き方



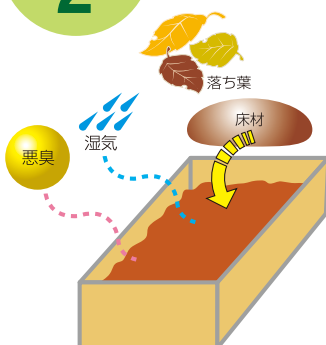
太陽の光を十分に受ける場所に設置します。
温度の上がない冬場は十分な太陽の光が必要です。また、ケースを斜めに設置するとフタに雨がたまりません。



一次処理
でのポイント

2

悪臭の対応



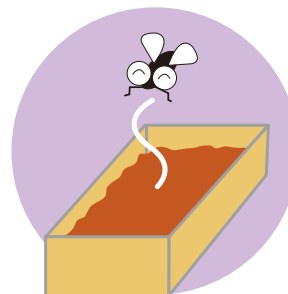
悪臭がしてきたり、湿気が多く含まれてきたら床材を追加するか、乾燥した落ち葉を足して水分を調整します。

※水分を加えたり、底からかき混ぜないでください。
生ごみが腐って悪臭の原因になります。

一次処理
でのポイント

3

虫の対応



ハエなどが寄ってくる場合は、水分が多いか生ごみの腐敗が進んでいます。気にしなければ、二次処理（高温での発酵処理）の段階で死滅して、堆肥の一部となります。

※堆肥ケースに入れる前の生ごみに産卵されないように気をつけましょう。

完熟堆肥の作り方 2 二次処理

準備物

■材料:比率

…一次処理したもの:10
(堆肥化ケースの中身)
…米ぬか :2
…粘りのある土 :1
…落ち葉 :1

※落ち葉を使わない方法もあります。

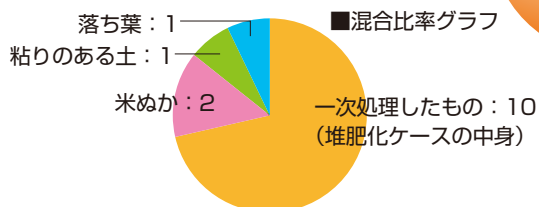
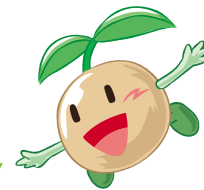
1:落ち葉

1:土

10:一次処理品

2:米ぬか

65℃～75℃



二次処理を行うと…

二次処理では、一次処理されたものを10ケース程度(500ℓ)まとめて発酵させます。

まとまった量を発酵させることで、温度が65℃～75℃に上昇し、熟成が進みます。結果、有害な菌や虫が死滅し、全体が水分調節された均一で良質な完熟堆肥になります。



二次処理の流れ…



▲1週間に1回程度、3～4回繰り返します。



▲温度が40℃に下がったら、熟成させます。



完成した
完熟堆肥



3ヶ月程度経過したら完熟堆肥として利用できます。完熟堆肥は、扱いやすい肥料として花や野菜栽培に利用できます。



市内には、完熟堆肥として生ごみのリサイクルを行っている団体があります。興味のある方は、問い合わせてみてはいかがでしょうか。

生ごみリサイクル亀さんの家
代表亀井静子さん 電話090-3580-1609

飯南町生ゴミ堆肥化研究グループ
松阪市飯南・飯高環境事務所 電話0598-32-2512